

令和3年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和3年7月16日（金） 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委 員	加藤 みどり
副委員長	武田 弘	委 員	岩崎 照代
委 員	前沢 幸雄	委 員	菊池 眞太郎
委 員	高橋 佳代子	委 員	篠原 美智代
委 員	友田 賢司		

(欠席委員)

委 員	唐木 義昭		
-----	-------	--	--

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	館 長	西原 崇浩
生涯学習課長	高浦 正充	主 査	前田 雅之
顧 問	井口 崇	主任主事	水流 拓馬

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5 人
傍聴人数	0 人

6 報告

(1) 令和2年度郷土博物館事業報告について

(2) その他

7 議題

- (1) 令和2年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について
- (2) 令和3年度郷土博物館の事業計画について
- (3) その他

8 議事

伊藤委員長 では、報告（1）令和2年度郷土博物館事業報告について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 資料に基づき説明

伊藤委員長 報告（1）令和2年度郷土博物館事業報告について何か質問ありませんか。

武田副委員長 調査研究の方で、生物の調査をしているようではすけれど、今、毒蜘蛛が千葉県の方でもあちこち出ている状態だと伺ったのですが、生物の調査はどの程度のことをやっているのですか。

西原館長 あくまで博物館で資料として扱う生物と言う所で、専門分野にもよるのですけれども、博物館周辺の生物、今年の特別展、海に関わる展示を行いますので、海の生物について調査しておりまして、毒生物については、今回は特に行っていません。

武田副委員長 県内のあちこちで蜘蛛が出ているという話を聞いておりますけれども、側溝など普段は出てこない所にいるらしいので、私も気をつけて見ているつもりでいます。

伊藤委員長 他、何かありますか。なければ、続きまして議題2について説明をいただきたいと思います。

西原館長 資料に基づき説明

 昨年も担当から評価の項目を見直したいという提案がありましたが、見直し案については今年度に示し、市民学芸員や友の会等からご意見をいただきながら、今後の会議で審議いただき、令和4年度に新たな使命を掲げたいと考えて

おります。

伊藤委員長　質問があればお願いします。

篠原委員　24ページの11番で、以前から新旧住民という言葉に質問があって記憶にはあるのですが、これはこのまま使って項目自体は変わらないと思うのですが、その言葉がいいかどうかというのも若干引かかる所があって、例えばそではなく30の展望が作られた時は新住民だった方々も、旧住民にもなる。新旧の捉え方がよくわからないのですけれど、新旧住民を意識した交流とは、例えばどういうものがあるのかといった時に、どう捉えたらいいかがわからない。

西原館長　その辺も、今後のあり方について考えを改めなければと思っています。

井口顧問　博物館では平成8年からミュージアム・フェスティバルと言う年1回のお祭りのようなことを実施しておりまして、それは博物館に来てもらえない方々に来館を促す目的もあって始めました。

ここで新旧住民と言う言葉は確かに考えなければいけない問題だと思えますけれども、この使命書を策定した当時は新旧という意識がまだ強かったというのが正直なところと、新よりも旧の方が博物館に来てもらっていないという現状としての課題がありました。地元の方にも博物館という場所で交流してもらいたいという強い思いがありました。

篠原委員　私の住まいの地域はあまり博物館に多分来ていないと思うので、旧ですね。

伊藤委員長　それは根形地区との交流だとかがあって、新旧に来てもらうこととか、マップを作って博物館に来てもらうだとか、そういった努力はしているようですが、今は時期が時期ですよ。

井口顧問　地元で地元でと言う意識が我々にもあったのですから、我々の方でもお願いして、根形だとか飯富の区長さんにも話を通して、フェスタはもちろんです、

何かことあるたびにこっちに足を運んでもらうだとか、野菜の販売ですとか、そういったこともしてきています。

篠原委員 この項目はある程度必要なのでしょうか。多くの人に来ていただくことが主だと思いますが。これ自体はHPにのせますか。

西原館長 はい。

篠原委員 次回からは削った方がいいのかなと思います。

岩崎委員 感覚の問題というか、私はここで育ったわけではなくて、引っ越してきて、25、6年にはなるのですが、感覚的には新住民なのです。地元民と言うところはありますけれど、一般的には20何年も住んでいれば、今、北側の方に越してきた人達から見たら、旧住民というようにみられると思いますが、そういう所にも個人個人で意識が違う、捉え方が違うと思うのです。新旧住民と言われた時に、私はどっちなのかと、北側の人から見れば明らかに旧住民だと思うのですが、他の方からみたら新住民かも知れません。引っ越してきた当初はそれこそ、いろんな所が珍しいので、足を運んだりしました。旧住民がこういう所に来ていないという感覚はすごくわかるのですが、旧住民の感覚もわかるようでわからないようで、すごく中途半端ですね。新旧住民とは誰が新で誰が旧なのか、話を聞いていて、私はどっちなのだろうと思ったので、項目は誰を対象としているのか、わかりやすくしてくれればと思いました。

伊藤委員長 後はよろしいですか。

菊池委員 16・17ページですが、目標値があるのとないのがありますよね。市民学芸員養成講座の実施回数が10回あって、目標値が無いにもかかわらず、10回も行われているというのはいいいことだと思うのですが、何か理由があるのですか。

西原館長　ここに出ている目標値ですけれども、本日お配りした『袖ヶ浦の教育』、こちらの21頁に目標値が出ていますが、こちらで事業に対して目標を掲げたものを目標値として出しておりまして、他にも例えば予算上での目標値を設定したものですとか、主要事業に対して目標値を設定しているのがありますが、全部が全部目標値を立てていなかったのもので、目標値を掲げていたものに対してのみ、こちらに目標値として出しているのもので、全てではないということです。本来ならここに全て目標値をたてて、数値的な目標値として出すという手法もあるのですが、数値的な目標はそではなく30の展望では出してないので、別途にまとめて参考に表示しています。

両方の評価をしてしまいますと、別の評価の仕方が出てきてしまうので、本来は一緒になるべきだと思っているのですけれども、そうすればそれぞれ目標値を設定することも可能になってくると思います。

菊池委員　すべて目標値を設定することは必要ですか。

西原館長　そういうことになります。数値を出すということはそういうことになってくると思います。

伊藤委員長　16ページで資料貸出件数と言うのが、かなり今までと比べて多くなっていますが、104点ということで、これは何か理由があるのですか。

西原館長　他の館に貸し出すことはあったのですが、104点も他に貸し出すことはありません。学校への貸出、物流の利用が増えているためです。コロナの関係で、資料を用いた展示をしたいとの相談がありましたので、そういったところで博物館資料の貸出が増えたものと思います。

前沢委員　104点にたぶん入っているとは思いますが、昭和小学校でも昨年度たくさん貸していただきましたので、そういうことで増えているのかなと思います。

それとは別に各地域のつながりというのがあって、25ページ、博学連携の効果について、小学校3年生の校外学習が3校行われて、こちらの方でお世話

になっているということで、さらに教材貸し出しも増えており、アウトリーチも4件ですので、市内7校ですから、ほぼ何らかの関わりを持っているのかなと思います。そもそも昨年度見学には来なかったのですが、けれども、昔の道具を貸していただいたりすることで、ちょうど貸し出しと、来る博物館と出る博物館というもので、過渡期になっている感じがするので、○というよりは学校としては◎に限りなく近いと思います。

西原館長 評価については少し辛めの評価になっているとは思いますが、委員のご意見も参考にさせていただいて、あくまでもこれは案ですので、◎としてよろしければ、修正します。

伊藤委員長 アイロンを貸し出したりとか、そういうのも入っているということですね。良いことだと思います。

菊池委員 26 ページの6 番の3、かなり具体的な目標が出ていますけれども、若手職員を含めて、『袖ヶ浦市史研究』とか、そういったものに投稿しなければならないとか、何か決まりあるのですか。

西原館長 特に決めているわけではないのですが、『袖ヶ浦市史研究』を2年に1回、発行しているのですが、学芸員と言う専門的な立場もありますので、学芸員の研究成果を発表する場として、職員が1冊に1人くらいは出そうという目標を強制ではありませんが、持っておりますので、そういったところできていなかったというところで評価しております。

菊池委員 日常的な仕事をしていると、執筆活動にはいるとか時間が無いようにみえます。

西原館長 そうですね。研究する時間がままならないというのが正直なところで、展示と研究を一緒にやっているところはあるのですが、個人的な研究というのはなかなかできていないというのが正直なところです。これについてはなかなか

か改善するというのも難しいです。

菊池委員 教職員の働き方改革といわれていますが、学芸員の働き方改革というか、定数とか、もう少し改善できればと思います。これは意識としては貴重だと思います。

篠原委員 23ページの7番の博物館に縁遠かった人を呼び込む。根形公民館との講座、すごくいいなと思ってうらやましいなと思ったんですね。根形だともっといいのは地域的なつながりがあるということで、今回の博物館へお願いしやすっていう最初のとっかかりはどちらからですか。

西原館長 これまで根形公民館とはいろいろやり取りがあって、数年前ですと成人絵画教室の発表場所として、アクアラインなるほど館を使ってもらったりとか、それは職員間の打ち合わせにより決まったことですが、今回の根形公民館との連携については、根形公民館から提案されたものです。逆にそではくとしては、今コロナの関係で研修室が15人までしか使えない、講座を開こうと思ったら15人しか人が呼べないので、根形公民館の施設をうまく活用させていただいて、こちらの講座をするというように、お互いにやりとりをして、協力し合っています。

篠原委員 私は平川なの方の住まいなのですが、平川公民館も講座があるのを全然知らなくて、そういう講座はやっているのですか。

西原館長 平川公民館は平川公民館なりの講座をやっていますが、平川公民館との連携は、どちらかというと少ないかもしれないです。平岡公民館の方がやりとりはあります。

篠原委員 すごくうらやましいなと思って、「旧住民」なので、やはり博物館と交流がとれていないのかなとも思いました。

伊藤委員長 前にも公民館祭りの時に、何か道具を貸し出したりとかはありますね。

井口顧問 かえって余分なことをしゃべっちゃうかもしれませんし、自慢になっちゃうかもしれませんけど、根形の場合は、私も根形公民館にいまして、地域学を立ち上げてきたりとか、当館職員の桐村もいたりとか、博物館と根形の職員の交流は、職員の職場になっていたというのが、結構影響しているかなと思います。講座に参加していただいている方が、桐村に喋ってほしいとか、そういうリク

エストもあります。それから平川とか平岡の職員が講座を作っていくときに、博物館で活動している市民学芸員の動きを知っているから、講師として招かれたりもしています。そうした動きがうまくいくと職員の意識も少しずつ高まって、そこはもっとうまくいかなという気がしますけれども、根形の場合はいま言ったような状況が根強いように思います。

伊藤委員長 根形公民館の女性の集まりが、ここに来て山野貝塚まで歩いていくとか、そういったこともやっていましたよね。

篠原委員 公民館の方と博物館との市内での話し合いの場というのは無いのですか。

西原館長 公民館の職員同士の横のつながりというのはありますが、管理職の月1回の会議によるつながりがあります。そういったところでの情報共有はできます。

篠原委員 そこがみんなに開かれるともっといいと思います。

伊藤委員長 今後、子供たちの社会科見学、体験学習、そういったことが増えれば、子どもが親に話して、今度は親子で、というようになるのではないかと思います。

伊藤委員長 この件に関して、かなり前向きな意見もでましたので、次の議題（２）令和3年度郷土博物館の事業計画について、説明をお願いします。

西原館長 資料に基づき説明

加藤委員 上総掘りのことですが、解体されて閉鎖され、寂しいなと思います。ここに上総掘りが展示されるようになるその前に、袖ヶ浦の市民、横田の方に上総掘りをずっとやっていた方がいて、その方の映像を博物館で見たことがあります。フィルムかDVDだったと思います。自分の遠い親戚になるのですが、そのフィルムにも技術があった記憶があります。こうやって昔もやっていましたよ、みたいな、今やっている方がいらっしゃるわけだから、袖ヶ浦の上総掘りの歴史のようなものを持ってきたらいいなと思っていました。

伊藤委員長 上総掘りは、ビデオもありますよね？

西原館長 ビデオもあります。

伊藤委員長 上総掘りはフィリピンとかで実際に井戸を掘って、喜ばれたこともありますし、かなり一時は外国に行って活動していた時代がありましたが、今はなかなか

かできないですね。散歩してる人で、上総掘りを一所懸命見ている人がいます。

西原館長 上総掘りの歴史等について、昨年度冊子を作りましたので、そういったところの周知や、展示も新しくしていますので、歴史についても多少扱っています。今、平川公民館の方で、上総掘りの写真とかですけれど、そういう展示もしています。

伊藤委員長 その他質問ありますか。

西原館長 補足よろしいですか。

伊藤委員長 はい

西原館長 ミュージアム・フェスティバルですが、毎年6月の第1土曜日に実施しており、資料の方では6月に書いてあるのですが、10月9日に延期しましたので、訂正します。

伊藤委員長 1日だけやりますか？

西原館長 土曜日1日に集約しています。もともと2日行っていたのですが、他の事業が予定されていることもありまして、今回1日に集約して、野外で行うことを中心に実施していきたいと思います。感染対策として、来られた方のチェックを行い、実施していきます。これから10月の開催に向けて、実際の開催の可否を含めて実行委員の皆様の意見を聞きながら、行っていこうかと思っています。今回は分散するのですが、万葉植物園も使おうかと考えています。

伊藤委員長 万葉植物園でカルタやりましたね。

西原館長 令和元年度に、万葉植物園でカルタをやったのがたぶん初めての試みかなと思っていますのですが、分散することにより、大変になってしまいますが、野外で行うことで感染対策を講じて行きたいと考えます。それから飲食ですが、基本的には園内で食べないようにし、感染対策を取ったうえで実施していきたいと思っていますのですが、いつもここで店を出していただいている商店の方もいらっしゃると思いますので、そういった方々に配慮しながら、テイクアウトと言ったところに対応を考えています。

伊藤委員長 やれることをやるということになりますが、食べ物はテイクアウトにすると言う基本原則がありますが、1日だけでやるというのは、日にちを押さえるの

かということもありますが、よろしく検討してください。
その他何かありますか。

前沢委員 アクアラインのなるほど館ですが、休館していますが、学校の行事との関連ですけれど、こういう状況下で校外学習ができてなくて、アクアラインのバックヤードの見学をできた学校があって、本校の6年生たちと行ってきたのですが、できて4半世紀ですか、改めてみると技術力といいますか、すごいと思います。振り返ってみると、良いか悪いかは別として、技術がすごいんですよ。子どもたちも「すごいね、土木技術の発展は」と興味を持ち始めて、なかなか目の届きにくいなるほど館だったのですが、子どもたちがそっちの方にも目が行っているというのをお伝えしたかったです。
一日も早い開館が待ち望まれます。

西原館長 アクアラインなるほど館は、換気扇が壊れていたのも修理しましたので、希望があれば、長時間でなければ、ご相談は受けられますので、ご連絡いただければと思います。

伊藤委員長 換気扇は直ったのですか。

西原館長 とりあえず直りました。後はどういう形で開けるのが一番いいかを検討しています。ただし、基本的な解決策はとれていませんので、その辺が大きな課題です。

伊藤委員長 お金もかかりますからね。子どもが楽しみにしているということなので、お願いします。

西原館長 なるほど館の関連なのですけれど、資料28ページ目ですね。来年の1月から3月ですが、これも市政施行30周年の関連ということで、「アクアラインなるほど館の軌跡」という企画展を計画しております。これに向けて開けるように考えております。

伊藤委員長 来年には何とかなるでしょうということですね。

加藤委員 今のアクアラインのところで、ソデフローラの展示が3月に入っているのですけれど、なるほど館では無理だろうという私たちの考えであって、3月に本館でロビー展という風にも思っています。アクアラインにするか、ロビー展にするかまだはっきりしてないので、資料に入っていますけれど、まだ決定ではないです。私たちは、アクアラインでやると日直つかなきゃいけないという話

があって、また本館ロビーで願ひするかもしれないですけど。28ページの一番端の方に「ソデフローラⅨ」とあるものです。

高橋委員 3月のところで、お雛様の飾りというのが入っているのですが、博物館として、お雛様の飾りつけはどのような規模で計画しているのですか。

西原館長 これは市民学芸員の方が実施して頂いているのですが、まず進藤家住宅に7段飾りを2つ、あとは本館ロビーに1つ置くとか、そのくらいです。

高橋委員 個人的なことで申し訳ないですが、親から頂いたお雛様の7段飾りの処分を検討していて、お炊き上げとかも考えているのですが、処分の仕方を悩んでいました。勝浦のお雛様の飾り、あれは大きな規模でやっていますけれど、博物館として、どのような規模でやっていくのかと思いました。

伊藤委員長 博物館は、結構古いのもありますよね。

西原館長 文化財と言えるような古いものもありまして、文化財と言えるものはそれぞれガラスケースに入れて展示します。7段飾りの3セットは頂いたものです。ですので、古くなったものについては、更新も可能なのですが、もしいらないからどうかという話があったら、ご相談させてください。

高橋委員 結構処分に困っている方、いらっしゃるんですよ。

西原館長 時々そういう話があります。

伊藤委員長 これは市民学芸員の方が中心にやっていますね。

西原館長 そうです。

伊藤委員長 その他で何かありますか。

無いということで、議題の方は以上で終わります。皆さん貴重なご意見、ありがとうございました。

閉会

令和3年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和3年7月16日（金）
午前10時から11時40分
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 報 告

（1）令和2年度郷土博物館事業報告について（10分）【質疑5分】

（2）その他

5 議 題

（1）令和2年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について（35分）
【質疑20分】

（2）令和3年度郷土博物館の事業計画について（10分）【質疑15分】

（3）その他

6 閉 会

報告（１）令和２年度郷土博物館事業報告について

1 令和２年度の経営方針及び重点施策

（１）経営方針

第２期教育ビジョンの目標である「明日を拓く 心豊かな たくましい 人づくり」の実現に向け、学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図るとともに、郷土の歴史と文化の保存・継承に努めます。

そのため、郷土博物館は、平成２４年度に策定した「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」を重点施策とし、国史跡・山野貝塚をはじめ、市内の文化遺産（地域資料）についての調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。

また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進して参ります。

そして、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

（２）重点施策

① 地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広く PR し博物館利用の促進を図ります。

調査研究

- ・山野貝塚に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・民俗・祭祀に関する調査 等

地域資料管理活用事業の展開

- ・地域資料の調査収集及び活用
- ・収蔵保管資料の適正な管理
- ・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・ホームページによる情報発信
- ・古文書等表題データベース作成
- ・『袖ヶ浦市史研究』第 20 号刊行

② 市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民の学習や知的交流の場となるように、市民のニーズに応じた常設展示の部分的な更新をはかるとともに、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画するとともに、地域の学習能力や地域文化の向上に貢献します。

また、博学連携事業の更なる充実を図るとともに、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるように博物館活動の周知に努めます。

さらに、市民の博物館活動の参画を促すために、市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に

努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

ア 展示更新推進事業の展開

- ・企画展 3 回(事業の目標値 入館者数 21,000 人以上)
 - i 企画展Ⅰ『「ごはん」の作り方ー米づくりから見る、暮らしと祈りー』
 - ii 企画展Ⅱ『海の民ーはるか縄文時代からー』
 - iii 市制施行 30 周年記念 2021 年企画展
『袖ヶ浦の美術 中島敏明展 ー画業 50 年の軌跡「elegy と慈愛」ー』
- ・常設展示の部分更新(近世)
- ・旧進藤家住宅での各種展示

イ 教育普及事業の推進 (事業の目標値：協働事業の実施回数 年 5 回)

- ・山野貝塚関連事業「初歩から始める大人のための縄文講座」の開催
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会との協働によるミュージム・フェスティバルの開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会との共催による自然と歴史の散策会

ウ 博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援(市内・市外)(事業の目標値 年 15 件)
- ・資料の貸出(事業の目標値 年 6 件)
- ・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成
- ・アウトリーチ活動(出前講座・出前授業・現場出張)
(事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年 3 件)
- ・山野貝塚体験型プログラム作成(中学生版)

エ みんなにやさしい事業の推進

- ・高齢者施設との連携(博福連携：博物館と福祉施設等の連携)
- ・多言語対応の推進
- ・ハンズオン(実際に手を触れるなどの体験学習)の充実

オ 市民学芸員の養成と支援

- ・市民学芸員の新規募集
- ・市民学芸員養成講座及びフォローアップ研修の実施
- ・市民学芸員主催イベント(子どもの日イベントなど)への支援
- ・市民学芸員『どんぐりの会』会報(どんぐり便り)の発行
- ・地域史掘り起こし研究への支援
- ・グループ活動の支援

カ 上総掘り技術伝承研究会活動の支援

- ・活動場所の確保
- ・資材調達
- ・活動 PR
- ・補助金による活動援助

キ 郷土博物館友の会活動の支援

- ・『友の会だより 48・49 号』の発行

- ・友の会各グループ活動(凧の会・何でも有り会・仏像を学ぶ会・土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)への支援
- ・友の会グループ主催イベント(新春凧揚げ会、盆栽展示など)への支援
- ・凧の会が参加する「かずさの国 凧あげフェスタ」への協力

ク 幼児期からの博物館体験

- ・そではくのもり(市民サロン)での親子での体験活動

③ 市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、安心・安全な施設を維持します。また、不具合が生じた箇所については、修繕等を行い、施設を維持管理していきます。

施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・I P M(日常的に収蔵環境を管理し、カビや病害虫の発生を抑えること:総合的病害虫管理)の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・日常的な施設の維持管理及び修繕による安全確保
- ・施設の老朽化に伴う改修工事等の実施
- ・非常用照明設備交換工事
- ・郷土博物館サブ変電設備更新工事

④ 博物館としての独自性を追求します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、N P O等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

ア 周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動(出前講座・展示・現場出張サービス)
- ・袖ヶ浦公園・根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。
- ・千葉県博図公連携事業への協力(企画展Ⅱ「海の民ーはるか縄文時代からー」の実施)

イ 郷土博物館実習生の受入

- ・学芸資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

ウ 各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

エ 博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

オ 国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

2 郷土博物館事業の記録

(1) 博物館協議会

博物館法第20条に基づき、博物館の運営に関し館長の諮問に応じ、博物館の各種事業企画等について審議しました。特に新型コロナウイルス禍における博物館事業の在り方やその成果について、重点的に協議を行いました。

	時期・内容	人数
第1回博物館協議会	令和2年7月16日(木) 郷土博物館の使命と評価について 令和2年度郷土博物館の事業計画について ほか	7人
第2回博物館協議会	令和2年12月3日(木) ウィズコロナ時代の博物館事業の実践について 博物館をめぐる動向と袖ヶ浦市郷土博物館の今後の展望について	8人
第3回博物館協議会	令和3年3月23日(火) 令和2年度郷土博物館事業の成果と課題について 令和3年度袖ヶ浦市郷土博物館経営方針及び重点施策(案)並びに令和3年度事業計画(案)について ほか	8人

(2) 博物館運営事業

博物館活動を円滑に遂行するための各種事務、並びに日本博物館協会・君津地方公立博物館協議会等の各種関係団体との情報交換・調査研究・研修等を行いました。新型コロナウイルスの影響により、調査研究および研修の多くは中止となりましたが、各種関係団体との情報交換は継続して実施しました。

- ・12月18日 令和2年度君津地方公立博物館協議会第1回研修会(木更津市郷土博物館金のすず)

(3) 調査研究事業

地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学芸員の個別調査研究を進めました。

- ・山野貝塚に関する調査
- ・中世荘園に関する調査
- ・民俗・祭祀に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査 ほか

(4) 教育普及事業

地域に根ざした博物館活動、市民の学習意欲に応えられる博物館活動の一環として、各種講習・講座の充実を図りました。

また、上総掘りの技術を普及・啓発するための冊子を刊行しました。

★博物館講座「袖ヶ浦学」 (1回) 講座として3回を企画(うち2回が中止)。歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ヶ浦」に迫る内容としました。	4月～2月	一般
第157回 友の会共催「弥生時代における当地域の農作物採算の実体について」 (講師 大谷 弘幸氏) 4月25日(土)の予定であったが、中止	中止 (※COVID-19対応)	
第158回 「西上総の馬乗り馬頭観音」 (講師 稲木 章宏氏)	10月3日(土)	34人
第159回 「冬の野鳥観察会 ～上池の鳥たち～」 (講師 大島 健夫氏) 2月20日(土)の予定であったが、中止	中止 (※COVID-19対応)	
	合計	34人
★ミュージアム・フェスティバル 6月6日(土)・7日(日)の2日間を予定していたが、新型コロナウイルスの影響を受け延期・中止としました。	中止 (※COVID-19対応)	
★自然と歴史の散策会 県内外の史跡・博物館等を見学し、歴史に親しむとともに市民の交流の場として、事業を展開しています。例年、年2回実施していますが、新型コロナウイルスの影響により、今年度は中止としました。	中止 (※COVID-19対応)	
★博図公連携事業等(公民館等体験事業、出前講座等のアウトリーチ)	通年	
根形公民館第1回地域再発見講座「山野貝塚について学ぶ」 (貝塚ができた頃の歴史的背景、山野遺跡の重要性について等)	7月4日(土)	19人
根形公民館第2回地域再発見講座「館内見学・郷土博物館の活動等について」	7月18日(土)	14人
市民会館第2回乳幼児家庭教育学級『ザリガニや虫たちと仲良くなろう!』 (市内の水辺の生き物について簡単な紹介と、ザリガニ釣りや飼育の方法等についての指導)	8月30日(日)	32人

西上総文化会移動研修会「西上総の中世遺跡巡り」 【郷土博物館（中世横田郷展示室）見学→横田郷跡（現地）散策】	9月27日（日）	13人
平岡公民館女性倶楽部・シニアセミナー フィールドワーク 「平岡地区散策」	10月7日（水）	15人
退職校長会 研修会 「長浦散策」	10月14日（水）	9人
根形公民館第5回地域再発見講座「内房の交通と観光について」	10月24日（土）	14人
市民会館女性セミナー「常設展・企画展Ⅰ・収蔵庫の見学」	11月10日（火）	21人
市民会館さわやかセミナー第1回 「博物館を深掘り！ミュージアムツアー」 （学芸員と一緒に展示から収蔵庫まで見学しながら博物館と市の歴史・民俗の見どころを学ぶ。）	11月15日（日）	3人
第4回学校司書研修会「博物館を使いこなそうー学芸員のおすすめの本の紹介、博物館職員が小中学校で行える出前講座、開催中の企画展の参考資料や裏話ー」	11月24日（火）	17人
根形公民館第6回地域再発見講座「祭神から探る神社のヒミツ （根形地区等の神社について）」	12月12日（土）	13人
市民会館さわやかセミナー第2回 「知るほどすごい！上総掘り」 （上総掘りについて歴史と仕組み、海外での活用などを実演を交えて学ぶ）	12月13日（日）	12人
根形公民館第7回地域再発見講座①講話「袖ヶ浦公園上池周辺の歴史情報について」 ②講座生との座談会	1月16日（土）	9人
市民会館さわやかセミナー第3回 「公園を歩こう！上池のひみつ」 （上池にまつわる歴史や逸話について、上池をめぐりながら学ぶ）	1月17日（日）	3人
	合計	194人
★その他各種普及事業 市民学芸員や博物館友の会のワークショップや単発的な各種講座等を開催しています。	通年	
かずさの国 凧あげフェスタ（海浜公園） ※5月4日（土・祝）予定であったが中止	中止（※COVID-19対応）	
1日ジュニア学芸員体験 （博物館実習関連事業。内容：上池周辺の水中の生き物の捕獲・調査）	8月22日（土）	9人
企画展Ⅰ『「ごはん」の作り方ー米づくりから見る、暮らしと祈りー』展示解説会（第1回）	10月24日（土）	6人

企画展Ⅰ『「ごはん」の作り方ー米づくりから見る、暮らしと祈りー』展示解説会（第2回）	12月5日（土）	4人
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅡ 第1回 縄文土器をさわって調べる	10月31日（土）	8人
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅡ 第2回 加曽利貝塚発掘調査見学、千葉県立中央博物館企画展「ちばの縄文」見学	11月21日（土）	15人 うち市民学芸員3名
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅡ 第3回 講義「加曽利貝塚と山野貝塚ー後期大型貝塚群の社会と生産活動ー」 講師：千葉市教育委員会 埋蔵文化財調査センター 西野雅人氏	1月19日（日）	16人
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知ろう！～partⅡ 第4回 山野貝塚講演会へ参加 ※2月6日（土）の予定であったが、中止	中止（※COVID-19対応）	
新春風揚げ会 ※1月16日（土）の予定であったが、中止	中止（※COVID-19対応）	
	合計	58人
★友の会活動への支援 7グループ（風の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会）が自主的に活動しています。 会報「友の会だより」48号を発行。49号はコロナの影響により編集作業が延期。 自主活動のほかに例年館との共催事業も実施していますが、新型コロナウイルスの影響により実施を見送りました。	通年	会員63人
★上総掘り技術伝承研究会の活動支援 博物館敷地内の足場で掘削、竹ヒゴづくりなど実施しました。	通年 （毎週土曜日、もしくは日曜日活動）	会員16人

（5）地域資料管理活用事業

館蔵資料（古文書等）の台帳作成及び整理や閲覧対応（デジタル公図を含む）のほか、資料保存のための燻蒸処理、虫害等防止のための館内環境整備を行っています。また、博物館の収集・収蔵資料を整理・情報化し、利用者に提供するとともに、博物館活動を

広く PR するためホームページを活用しこまめな更新により情報を発信しています。さらに、『袖ヶ浦市史研究』第 20 号を刊行しました。

- ・奈良輪漁組史料の保存・修復（33 点）
- ・収蔵庫の資料整理及び適切な資料の保存
- ・収蔵資料の調査研究

企画展開催に伴う収蔵民具及び古文書の調査

袖ヶ浦市史研究第 20 号編纂に伴う調査研究（吉堀家『戊辰日記』、『深川元儁翁詠草』）

- ・収蔵資料の公開（民具 3,974 点、歴史資料 2,930 点）
- ・ホームページのリニューアルによる情報発信

（6）博学連携事業

博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図りました。また、体験学習等への市民学芸員（ボランティア）の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能しています。

校外学習支援（事業目標 年 15 校）	通年	市内外の小 中学校 3 校 188 人
アウトリーチ活動(出前展示・出前授業) (事業目標 年 3 件)	通年	4 件 473 人
学習相談	通年	3 件
実物資料貸し出し	通年	8 件 104 点
図書貸し出し(物流システム利用、ビデオも含む)	通年	4 件 35 冊
博物館実習生受入	通年	5 校 5 人

（7）展示更新推進事業

本館では、歴史展示室の近世コーナーについて、一部展示替えを行いました。また、附属施設となる旧進藤家住宅では、体験学習などで施設の有効活用を図りました。さらに、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展 3 回・ロビー展 3 回・休館中のアクアラインなるほど館ロビー展の代替としてミニ企画展を 1 回開催しました。

※5 月 31 日まで新型コロナウイルス感染症対策のため全施設休館

12 月 21 日から 27 日まで電気設備工事のため本館休館

1 月 22 日から 3 月 21 日まで新型コロナウイルス感染症対策のため全施設休館

アクアラインなるほど館は新型コロナウイルス感染症対策のための休館を継続

★常設展 本館では、映像・歴史・民俗・昭和の暮らし・上総掘り・国史跡山野貝塚各部屋の展示及び情報提供によって、袖ヶ浦市の暮らしの移り変わりなどを理解しやすいものとししました。アクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の屋外展示施設の有効活用を図っています。 また、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、歴史展示室の近世コーナーおよび昭和の暮らしコーナーの展示替えを行いました。	本 館	11,391 人
	アクアラインなるほど館 休館 (COVID-19 対応)	0 人
	旧進藤家住宅	8,071 人
	合計	19,462 人
★企画展		
企画展Ⅰ『「ごはん」の作り方ー米づくりから見る、暮らしと祈りー』 ※1月22日から休館のため、Youtubeで概要公開	10月3日(土)～2月11日(木)	5,213 人
企画展Ⅱ『海の民ーはるか縄文時代からー』 ※10月～12月で計画していたが中止	中止 (※COVID-19 対応)	
市制施行30周年記念 2021年企画展『袖ヶ浦の美術 中島敏明展 ー画業50年の軌跡「elegyと慈愛」ー』	3月23日(火)～4月18日(日)	1,494 人 (3月31日現在)
	合計	6,707 人
★アクアラインなるほど館ロビー展		
市民学芸員自主企画写真展『馬に乗った観音様 わがまちにも』 ※3月20日～5月10日で計画していたが延期。 アクアラインなるほど館の休館継続に伴い、本館特別展示室でのミニ企画展に変更。	中止 (※COVID-19 対応)	
	合計	0 人
★本館ロビー展示・ミニ企画展		
本館ロビー展示「見て★コレ！そではく見てみてコレクション」	6月3日(木)～1月21日(金)	9,897 人
市民学芸員郷土を学ぶ会 自主企画写真展『馬に乗った観音様 わがまちにも』(特別展示室ミニ企画)	7月18日(土)～8月30日(日)	1,665 人
市民学芸員葉月の会 自主企画植物画展『ソデフローラⅧ』(本館ロビー展示)	11月15日(日)～11月29日(日)	1,184 人
市民学芸員自主企画展示「おひなさま」(旧進藤家住宅・本館ロビー) ※2月中旬～3月31日で計画していたが中止	中止 (※COVID-19 対応)	

本館ロビー展示 「見て★コレ！そではく見てみてコレクションⅡ ー市史研究と一緒に見てみてー」	3月23日（火）～	1,494人 (3月31日 現在)
	合計	14,240 人

（８）市民学芸員協働事業

市民とともに歩む博物館の実現のため、市民学芸員を育成し、協働による博物館事業の実施や調査・研究活動の支援を行いました。

今年度は、新規市民学芸員の獲得のため、通年での連続講座として市民学芸員養成講座を開催し、併せて既存の市民学芸員の意識向上と学びサポートのため、フォローアップ研修を行いました。

市民学芸員養成講座①オリエンテーション「令和のそではくビジョンと皆さん」	7月18日（土）	4人
市民学芸員養成講座②博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	7月31日（金）	4人
市民学芸員養成講座③I P Mについて学ぼう（博物館実習と合同開催）	8月19日（水）	4人
市民学芸員養成講座④そではく大解剖！そではく辛口採点会	9月10日（木）	4人
市民学芸員養成講座⑤博物館の調査研究とフィールドワークの心得	9月30日（水）	4人
市民学芸員養成講座⑥フィールドワーク実習・グループ活動参加(1)郷土を学ぶ会と歩こう	10月16日（金）	4人
市民学芸員養成講座⑦企画展の深イイ話を聞こう（担当者を囲んでフリートーキング）	10月29日（木）	3人
市民学芸員養成講座⑧バス移動講座「東上総の郷土資料館を見に行こう」 茂原市美術館郷土資料館・睦沢町立歴史民俗資料館の見学	11月6日（金）	4人
市民学芸員養成講座⑨縄文講座の移動講座に参加	11月21日（土）	3人
市民学芸員養成講座⑩小学3年生体験学習スタッフ養成講座	12月10日（木）	3人
市民学芸員養成講座⑪修了式 ※定例会と同時開催	3月28日（日）	4人
市民学芸員フォローアップ研修 「佐倉の文化財ボランティアガイドに学ぼう」 佐倉順天堂・武家屋敷・国立歴史民俗博物館の見学（バス移動研修）	11月13日（金）	8人
刀剣手入れ作業		1人

こどもの日イベント「市民学芸員と遊ぼう！」（市民学芸員主催）※例年５月５日（日・祝）	中止（※COVID-19対応）	
十五夜コンサート	中止（※COVID-19対応）	
市民学芸員によるお飾り作り体験会 ※一般募集なし、市民学芸員の学習会として実施	12月21日（土）	8人
ひな人形展示（展示作業）	中止（※COVID-19対応）	
全体会議・定例会 ※11月は「井口顧問の博物館学」（十日町市博物館・国立アイヌ民族博物館について井口顧問の講義）を同時開催。1月24日（日）および2月28日（日）は中止	10月25日（日）	14人
	11月29日（日）	15人
	3月28日（日）	10人
体験学習協力	10月22日（木）	5人
万葉植物園整備（万葉グループ活動）	通年	会員数 15人
植物作画活動（葉月の会活動）	通年	会員数 10人
地域文化財マップ作製（郷土を学ぶ会活動）	通年	会員数 4人

（９）施設管理事業

博物館施設として恒常的に適正な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理（修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等）を行いました。また、資料の適正な管理のため、収蔵庫の空調機を修繕し、年間を通してIPMの理念に基づいた展示環境・収蔵環境の管理を実践しました。

今年度は年末に１週間の休館期間を設けて、サブ受変電設備（キュービクル）の更新工事を実施した他、非常用照明設備の交換工事、本館屋根の幕板改修工事、市民サロンの雨漏修繕を実施し、安心・安全な施設の維持管理に努めました。

また、博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月１回の安全点検と消防署の協力を得て、消火訓練を実施しました。

３ 博物館事業の総括

第２期教育ビジョンの目標である「明日を拓く 心豊かな たくましい 人づくり」の実現に向け、学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図るとともに、郷土の歴史と文化の保存・継承に努めました。
総括は次のとおりです。

（１）地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、

市民の共有財産として次世代に継承します。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし、博物館の利用の促進を図りました。

(2) 市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民のニーズに応じた常設展示を部分的に更新するとともに、企画展や特別展を計画的に開催してきました。また、博学連携事業として小学校と連携して、子どもたちが日常的に活用し身近な場としての博物館活動をしてきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や延期を余儀なくされた事業が多くありましたが、感染防止対策を徹底や規模や内容を一部変更するなどの工夫のもと、制限のある状況下においても地域文化の向上に努めました。

①展示更新推進事業

ア 企画展・ロビー展示等の展開

市民学芸員の自主企画写真展『馬に乗った観音様 わがまちにも』は、来館者に地域の魅力をアピールすることに貢献しました。企画展Ⅰ『「ごはん」の作り方一米作りから見る、暮らしと祈り』は、かつて米作りに携わった人たちにとって懐かしく魅力的な内容であり、見学した高齢者に活力を与える効果もありました。さらに、来館者から新たな情報の提供を受けながら、展示内容を進化させる双方向性もあり、大変好評でした。また、ロビーを用いた展示を年数回行うなどより幅広い方法での展示を行い、収蔵資料の積極的な活用と発信を行いました。

イ 常設展示の更新

常設展示関係では、近世コーナーの展示替えを実施し、最新の知見のもとに展示室の有効活用と地元固有の財産の継承を図ることが出来ました。

なお、アクアラインなるほど館については、新型コロナウイルス感染症対策を万全に行えないことから、休館が続いています。今後、このような有事の際の来館者対応について、他館の事例を収集する等調査し、検討する必要があります。

②教育普及事業

ア 講座等の充実

博物館講座「袖ヶ浦学」では、市民学芸員の自主企画写真展の関連事業として、展示のテーマである馬乗り馬頭観音について解説し、この地域の民俗についてより知見が深められる内容が市民の関心を集めました。昨年度から開催している「初歩から始める大人のための縄文講座」は、土器の調査や発掘現場の視察等の体験を通じて、縄文時代については国指定史跡の山野貝塚への理解につなげられる内容を目指しました。その他中止となる事業も多くありましたが、公民館等から見学対応や講師の依頼を多く受け、これまで博物館とは疎遠であった公民館利用者にも活動を周知することができました。

イ 博学連携事業の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた小中学校の体験学習の多くが中止となりましたが、物流システムを通じた資料の貸し出し等を通じて、学習材料の提供や発信を行いました。博物館での体験学習の代替として、一部をアウトリーチに変更して実施しましたが、密と接触を避けた体験プログラムについて検討していく必要があります。

ウ 市民との協働

きめ細かな博物館活動（サービス）の展開を目指し、ボランティア活動による新たな学びの場を提供するとともに、市民相互交流を促すことを目的として活動を展開しています。市民学芸員は、自主企画展の企画・運営のほか、ミュージアム・フェスティバル、博学連携事業、万葉植物園手入れ、資料管理支援等で活躍しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ミュージアム・フェスティバルの中止や博学連携事業における支援の要請の自粛等、活動の場を制限してしまうこととなりました。こうした状況にありましたが、新規人材獲得のための市民学芸員養成講座や、フォローアップ研修を通じて、協働の枠組みの維持と関係者のスキルアップを目指しました。

（３）市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

キュービクルの交換をはじめとして老朽化等により整備・更新が必要な個所について工事を行い、市民の皆様が訪れた時に快適な環境で館内をご覧いただけるよう施設環境の整備に心がけました。

また、ガイドラインに則った新型コロナウイルス感染症対策として、消毒や定員の制限、間隔の確保の表示等を行い、市民の皆様が安心してご利用いただけるように環境を整えました。

さらに、老朽化した施設を予防保全することを目的として、施設点検マニュアルをもとに、施設の自主点検を実施しました。

（４）博物館としての独自性を追求します。

出前講座などアウトリーチ活動や、博物館を会場とした講座の講師等を通じて、市民会館、根形公民館、平岡公民館など他の社会教育施設との連携、教育を図り、活動を支援しました。また、他団体が主催する講座の講師なども行い、職員の専門性を高めるとともに連携を図ることができました。

議題（１）令和２年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について

1 提案理由

博物館法第9条には、博物館の運営の状況の評価を行うとともに、博物館運営の改善をはかるため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが規定され、公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準第4条第2項においては、博物館協議会の活用やその他の方法により点検と評価を行い、その結果を公表するよう努めることが示されている。

そのため、郷土博物館の活動目標及び活動計画でもある『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』（別添資料）に基づき、令和２年度郷土博物館の運営について点検と評価をしようとするものである

2 関連法令

① 博物館法（抄）

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

② 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準（抄）

（運営の状況に関する点検及び評価等）

第4条 博物館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の事業計画の達成状況その他の運営の状況について、自ら点検及び評価を行うよう努めるものとする。

2 博物館は、前項の点検及び評価のほか、当該博物館の運営体制の整備の状況に応じ、博物館協議会の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、当該博物館の事業に関して学識経験のある者、当該博物館の利用者、地域住民その他の者による評価を行うよう努めるものとする。

3 博物館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該博物館の運営の改善

を図るため必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

- 4 博物館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）を活用すること等により、積極的に公表するよう努めるものとする。

3 郷土博物館事業実績値一覧

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R2)
入館者数(人)	74,880	71,900	56,438	60,815	58,439	19,462	
本 館	36,120	33,811	34,460	34,755	30,210	11,391	32,500
なるほど館	13,347	12,189	12,501	13,554	11,337	0	
旧進藤家	25,413	25,900	9,477	12,506	16,892	8,071	
企画展開催回数 (回)	3	3	3	4	3	2	
企画展・特別展 入館者数(人)	19,509	19,295	25,301	25,251	24,691	6,707	
企画展入館者数 Ⅰ 1,114 Ⅱ 9,372 Ⅲ 6,269 特別展 2,754	6,338 6,378 5,568 1,011	10,760 3,487 4,686 6,368	11,170 6,265 3,254 4,562	14,041 5,959 4,691	5,213 1,494	上段前年度継続展示 3,000	
なるほど館ロビー 展(回)	11	9	8	10	10	0	
保存修復資料数 (点)	48	43	42	22	37	33	
館蔵資料データ ベース化(件)	880	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
収蔵資料デジタル 化(枚)	—	835	801		—	1,147	R2 から会計年度 任用職員作業
市史研究刊行(号)	—	18	—	19		20	隔年刊行
資料購入(点)	—	—	1	8	11	20	
寄贈された資料	143	1	37	194	13 件	18 件	
校外学習支援(校)	20	23	21	17	17	3	15
アウトリーチ活 動(件)	5	4	5	6	8	4	3
資料貸出し(点)	4	19	69	17	33	104	
学習相談(件)	18	10	14	7	6	3	6
職場体験(校)	2	2	4	2	2	0	

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値 (R2)
博物館実習(校)	1	3	3	2	6	5	
福祉施設見学者 数(人)	—	—	—	421	79	110	
袖ヶ浦学(回)	5	6	6	6	6	1	
MF 入場者数(校)	3,173	2,211	3,221	4,198	3,749	—	
市民学芸員数	28	33	34	34	35	36	
市民学芸員研修 会(回)	—	—	—	2	3	1	2
市民学芸員養成 講座の実施回数						10	
友の会会員数	56	61	64	69	69	63	
友の会だより発 行(号)	40	41 臨時号	42 43	44 45	46 47	48	
上総掘り会員数	12	7	14	13	15	16	
協働事業実施回数	—	—	—	10	14	3	5

※MF：ミュージアム・フェスティバル アウトリーチ：出前授業、出前展示

4 自己評価

①評価項目（そではく30の展望の30項目）

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく30の展望—』に示された6つの活動目標を達成するために示した、30項目の「あるべき姿」に対して、「令和2年度の取り組み」、「成果・効果」、を踏まえて、自己評価した。

②評価基準

評価にあたっては、下記の達成度で評価しているが、定数的な評価が難しい項目が多いため、主観的な達成度として示している。

◎目的（あるべき姿）に限りなく到達した項目

○目的にある程度達した項目

△取り組んだが目的に達しなかった項目

×取り組まなかった項目

5 「そではく30の展望」評価結果

活動指標	あるべき姿	R2 年度 評価	R1 年度 評価
(1)地域の資(史)料 を守る－資(史)料 の収集と保管－	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	◎	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	◎	○
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	◎	○
(2)地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	◎	◎
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。	○	○
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	◎	◎
	4.調査研究の成果が公開されている。	◎	◎
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	◎	◎
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	◎	◎
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	◎	◎
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	◎	◎
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている	○	○
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	◎	◎
	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	○	◎
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	○	○
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	◎	◎
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。	○	△
	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしが行えるような工夫がある。	△	○
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	○	○
	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	△	○

活動指標	あるべき姿	R2 年度 評価	R1 年度 評価
(4)地域のつながりを活かす ―地域連携の展開―	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	○	○
	2.博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。	◎	○
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	○	○
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	○	◎
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	○	◎
(5)安心・安全な施設にする ―改善と維持管理―	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	○	○
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	△	△
(6)袖博らしさを追求する ―マネジメント力の強化―	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	○	○
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	○	○
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができている。	○	○

①令和2年度評価結果 ※ () は令和元年度との比較

◎：13項目（1増）

○：14項目（2減）

△：3項目（1増）

×：0項目（増減無）

②運営の改善を図るため必要な措置

今後の対応欄の記載事項を必要な措置とする。

6 郷土博物館の運営の評価の今後について

令和2年度 第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会にて、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命―そではく30の展望―』の見直しについて提案

令和3年度～4年度 見直しについて、検討・審議

（博物館協議会委員・市民学芸員・博物館友の会員等）

令和4年度 袖ヶ浦市郷土博物館協議会に提案、新『袖ヶ浦市郷土博物館の使命』策定

令和2年度「そではく30の展望」の点検と評価

◎目的(あるべき姿)に限りなく到達した項目 ○目的にある程度達した項目
△取り組んだが目的に達しなかった項目 ×取り組まなかった項目

活動目標	あるべき姿	令和2年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(1) 地域の資料を守る	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後 ・収蔵環境調査（7月から11月の間で2回） ①昆虫類生息調査 ②空中浮遊カビ類調査 ③浮遊塵芥調査 ④酸・アルカリ度調査 ⑤第2収蔵庫サーモグラフィー調査（1回目のみ） 結果：ゴキブリ・ヒメマルカツオブシムシ幼虫の生息が本館各所で見られる 民俗展示室でチャタテムシが多く捕獲された。 第2収蔵庫 酸性傾向 ・コロナ対応による臨時休館中に、収蔵庫内清掃、資料整理実施 ・資料燻蒸業務委託 アクアラインなるほど館で実施	・日常的な管理により適切に保管している。 ・害虫の生息状況が確認でき、やるべき対策がわかった。 ・サーモグラフィー調査により、第2収蔵庫空調に漏水等の問題はないことがわかった。 ・臨時休館期間の資料整理により、資料の現状把握や清掃をすることができた。 ・資料燻蒸をアクアラインなるほど館で実施することで、輸送の手間が省け、より多くの資料を一度に燻蒸できるようになっており、新規の収蔵資料も迅速に燻蒸し、収蔵庫へ収納できる流れが整っている。それにより、次の作業である資料整理もスムーズに行われている。	◎	・第2・第3収蔵庫について、温湿度を適正に管理するためには現状の空調機では老朽化による問題がある。故障により停止した場合、夏季では資料に影響を及ぼすほどの温湿度の上昇が考えられるので、異常に早く気づくために、平常時から注意が必要。 ・博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題がある。 ・コロナ対応による窓の開放で、館内に侵入する昆虫が増えている。 ・第2収蔵庫の酸性傾向が続いており、収蔵資料の確認が必要。	・収蔵庫の温湿度管理は継続し、毎日記録し、変化があった場合は原因を追求する。収蔵庫の清掃と整理を日常的に行う。 ・収蔵庫の空調機は将来の新設へ向けて、最新機器や導入事例等を調査する。 ・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。 ・第2収蔵庫については、フィルム等酸性に傾いた資料がないか確認する。
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	・旧の資料保存箱及び封筒に入っている資料を中性紙の資料保存箱及び封筒へ入れ替え。 ・古文書等の表題データベースを作成し、活用並びに情報公開に備えた。	・古文書の箱と封筒の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。 ・封筒の入れ替えに合わせ、市史目録の不備を補填し、目録の利便性を高めた。 ・入替作業の際に、収納方法を工夫してより多く1箱に入るようにし、収蔵庫の省スペース化を図った。 ・新収蔵古文書のデータベース化を進めた。	◎	・古文書の読める作業者が少ないため、新収蔵古文書の整理に時間がかかる。 ・新収蔵古文書の活用のための目録が必要。 ・第3収蔵庫は飽和状態なため、さらに省スペース化を進める必要がある。	・古文書の読める作業者の確保 ・市史目録8巻刊行以降に収蔵した古文書について、目録刊行へ向けて作業を進める。
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	・収蔵資料の修復委託 ：旧奈良輪漁組文書(平成22年度～) 33点実施 691/1,132点 ・埋蔵文化財ポジフィルムのデジタル化（平成16年度～平成29年度まで委託により実施） 令和2年度からは会計年度任用職員により実施。 ：平成21年度～考古資料（鉄製品）の保存処理の業務委託（国庫補助事業） ※生涯学習課で実施 ・近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。（会計年度任用職員雇用）	・埋蔵文化財写真のデジタル化を会計年度任用職員により実施した。 ・資料整理に専従する会計年度任用職員を雇用し、近年受け入れた民具の把握と収蔵、データベース作成を進めることができた。合わせて、重複の多いもの、破損の著しいものについて、廃棄を行った。	◎	・限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数が限られる。 ・近年受け入れた民具の整理に時間を要する。	・埋蔵文化財写真デジタル化は、引き続き会計年度任用職員により実施する。 ・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。 ・古文書等、収蔵資料の劣化状況の確認し、修復に必要な資料を把握して優先順位をつける。 ・近年受け入れた民具については、引き続き会計年度任用職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。 ・収蔵庫の清掃や整理作業については、継続し、日常的に行っていく。

活動目標	あ る べ き 姿	令和2年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(2) 地域を探 り、発信す る	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	・調査研究の実施 山野貝塚に関する調査、袖ケ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査、民俗・祭祀に関する調査 ・収蔵資料の精査	・企画展Ⅰは、館収蔵農具の調査の成果を展示に反映した。 ・次年度の企画展・特別展に向けて、館収蔵の古文書と、海の生物についての調査を実施した。 ・山野貝塚については、継続して行っている調査研究の成果を縄文講座として市民に還元できた。	◎	・他業務等により職員の調査研究のための時間を確保や継続的に取り組んで行くことが難しい。	・調査研究できる状況を確保できるように努めることや事業のスクラップアンドビルドも検討する。
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行えている。	・博物館ホームページ上で収蔵資料リストの公開 ・古文書のデータベース化 ・会計年度任用職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成	・利用者が情報を得やすい環境をつくることのできた。 ・収蔵資料データベースを見直し、民具と歴史資料を分けることでより検索・管理しやすい体制づくりを進めた。	○	・データベースの情報量が多く、活用しやすい形になっていない。	・より活用しやすいデータベースのあり方を検討し、工夫する。
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	・寄贈などによる資料の集積 寄贈資料 18件 ・資料購入 1件 ・収蔵資料の活用・公開 閲覧5件・資料貸与6件・写真資料掲載許可取り扱い15件	・寄贈などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。 ・資料購入により、袖ケ浦市内から流出した古文書を回収することができた。	◎	・近年、インターネットによる古文書の売買が盛んに行われている。袖ケ浦市域からの流出例も増加しており、地域資料の散逸が懸念されている。	・博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげるとともに、引き続き資料購入費を予算計上し、流出資料の回収に努める。
	4.調査研究の成果が公開されている。	・『袖ケ浦市史研究』第20号の刊行による調査研究成果公開 ・企画展での調査研究成果公開。 企画展Ⅰ「『ごはん』の作り方ー米作りから見る暮らしと祈りー」 ・企画展関連事業（展示解説会）による研究成果発表 ・袖ケ浦学による地域研究成果発表。 ・縄文講座の実施による山野貝塚及び袖ケ浦の縄文時代についての研究発表。	・『袖ケ浦市史研究』により、地域の歴史等に関する最新の研究成果等を集約し、公開することができた。 ・調査研究の成果を企画展として公開し、また、図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。 ・企画展の解説をYoutubeで配信し、より多くの利用者に提供することができた。	◎	・市史研究の寄稿者に偏りが見られる。 ・市史研究及び袖ケ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。 ・インターネットやSNS等を活用した研究成果公開はさらに進める必要がある。	・近隣市の在住の研究者等に寄稿を呼び掛け、市史研究のレベルアップをはかる。 ・学芸員資格を持つ者を中心に、当市職員に呼びかけ、市史研究への寄稿や袖ケ浦学での研究発表者を募る。 ・インターネットやSNS等を活用した研究成果公開の方法について検討し、実施する。
	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	・常設展示の通史展示を部分的に更新、調査研究の成果の一環として企画展を開催した。 ・前年開催の企画展の成果を常設展示（近世）に活用した。 ・体験学習用に昔の生活道具を展示している情報提供室について、新たに収蔵した昭和後半の冷蔵庫等を展示した。	・常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。 ・企画展のための調査研究成果を常設展示に還元できた。 ・前年の企画展Ⅱの成果から近世コーナーに地域資料を多く展示し、展示を市民にとってより身近なものとした。 ・昔の生活展示について、現在の子どもたちや親世代にとってより身近なものとした。	◎	・第3次展示基本構想が停止したままとなっており、改修計画とあわせて検討する必要がある。 ・常設展示への市民の意向については、あまり把握できていない。	・引き続き企画展等の調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。 ・アンケート等を実施し、意向を把握するように努める。
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	・地域の資料を多く展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。 ・企画展の開催による新たな価値の創造 企画展Ⅰ 農具の展示による、かつての使用者からの情報提供。 「袖ケ浦の美術 中島敏明展」 通常博物館では取り扱わない洋画の作品展。	・農具の展示は、その農具を使っていた世代と孫世代との間に、世代間交流を促進させる効果もあった。 ・「袖ケ浦の美術 中島敏明展」は、市内在住の洋画家の作品展という、博物館では通常取り扱わないジャンルの展示を行ったことにより、これまで博物館へ来たことのない人にも来館を促した。	◎	・利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、まず職員それぞれが、収蔵資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ケ浦の魅力ある事象について見識を深める必要がある。 ・資料を魅力的に見せるために、展示方法についても研究する必要がある。	・業務の中で館内研修を行うなど、職員が袖ケ浦について知る・研究する時間を多く設けるようにする。 ・他館の展示の見学や最新の展示用品の情報を収集する等、展示手法についての調査研究を進める。

活動目標	あ る べ き 姿	令和2年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(3) 学習・知的 交流の拠 点になる	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	・展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。 ・企画展チラシ・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。 ・企画展Ⅰは、懐かしい農具を展示することで、かつて使用していた世代からの情報提供を狙った。 ・常設展示は、企画展の成果を元に、身近な地域資料といった利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。	・企画展Ⅰは、展示内容に共感度を高めたことにより、展示を見た人からのリターン（情報提供など）といった双方向性が見られた。 ・常設展示替えを行った近世コーナーは、横田という地域をピックアップし、身近な小学校や神社を取り上げたことで、子どもたちにも親しみやすいものとなった。 ・昔の生活道具コーナーは、昭和後半の冷蔵庫等を展示に追加することで、より来館者に身近なものとなった。	◎	・利用者の共感を得やすい時期（昭和40年代以降など）の資料はさらに展示に増やす必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加体験型の展示ができない傾向が続いている。	・新しい時代であるが、1980～90年代といった親世代の青春時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しめ、世代間交流に貢献できる展示をさらに充実させる。 ・新しい生活様式のもとで可能な双方向性展示について、調査研究を進める。
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	・新型コロナウイルス感染症拡大防止措置による休館が年2回あったが、2回の企画展に加え、施設再開時に収蔵資料を活用したロビー展示「見て★コレ！そではく見てみてコレクション」を2回開催した。	・地域資料を有効活用した企画展やロビー展示の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。	◎	・職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。	・市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、若手職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要がある。
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている。	・市民学芸員自主企画展示を行った。 ：写真展 馬に乗った観音様 7/8～8/30（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期） ：ソデフローラⅧ 植物画展 11/15～11/29	・市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。	○	・過去に行っていたような市民学芸員の大規模な企画展を行っていない。市民学芸員の高齢化により、特別展示室を使用した展示を検討・実施する余力のある市民学芸員が減少している。	・市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。 ・市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	・ホームページが市ホームページに移行し、リニューアルした。 ・市ホームページやSNS利用し、情報提供を積極的に行った。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により期間途中で中止となったアクアラインなるほど館ロビー展示「平安時代の○○村」、企画展Ⅰ「『ごはん』の作り方」をYouTube配信した。	・情報伝達手段を増やすことで多くの人々に発信することができた。	◎	・コロナ禍が続くことで、在宅需要が増え、インターネット等によるさらなる情報伝達が期待されている。 ・博物館のホームページとして内容が薄い。 ・展示やホームページに多言語対応ができていない。	・今以上にYouTubeなどを効果的に活用する。 ・博物館としての情報を求めてホームページを検索した人が満足できるように、コラム等を取り入れホームページの内容を充実させる。 ・展示等の多言語化を進める。
	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	・ミュージアム・フェスティバルや市民学芸員子どもの日イベント等、各種教育普及事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどが中止となった。 ・講座「袖ヶ浦学」1回開催 ・公民館等他の施設と連携し、講座での団体利用を促進した。	・袖ヶ浦学は、市民学芸員の自主企画展に関連して実施し、人気の石造物を取り上げたことで多くの参加者を得た。 ・これまで、公民館は利用するが博物館へは来たことがなかった公民館講座生を新たな利用者として獲得することができた。	○	・新型コロナウイルス感染症が収束するまではこれまで通りの教育普及事業は困難になっている。 ・講座の開催は、研修室の利用人数が15人までなので、会場を公民館等に求めなければならない。 ・博物館に全く来ない人・来たことのない人へのアピール方法について、さらに検討する必要がある。	・広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。 ・公民館等との連携をさらに深め、新たな利用者の獲得につなげる。

活動目標	あ る べ き 姿	令和2年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	・展覧会等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかリサーチした。	・アンケートにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。 ・他の社会教育施設の状況を知ること、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。	○	・アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。	・アンケートは引き続き実施する。 ・公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。 ・常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	・市ホームページ・ツイッターを利用したPR活動や情報提供。 ・新聞、地域紙、テレビ撮影等の媒体を活用した情報掲載	・各種のメディアにより多くの人にPRすることができた。	◎	・PR活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。 ・SNS等に関する職員の知識が不足している。	・新聞・雑誌・テレビ等、多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。 ・来館した人々が利用したメディア等について分析を行う。 ・SNS等の調査研究を行い、効果的な活用方法を検討する。
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくれ機能している。	・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス ・図書室での図書閲覧やコピーサービス ・学校図書館司書研修会で博物館と学校図書室との連携の可能性について発表した。 ・図書室を利用しやすいように整備した。	・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。 ・図書室や学芸員室の図書について、市民学芸員や友の会員等に貸出を行い、活用を促進した。 ・コロナ禍による休館の期間が長かったこともあり、一般来館者の図書利用、コピーサービスの利用は少なかった。 ・学校図書館司書に、博物館の資料と人材についてPRすることができた。学校図書館司書と直接メールでつながることができた。	○	・物流ネットワークについては今一つ利用が促進されてない。 ・図書室が閉室のため、利用しにくい。	・学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークをさらに活用できる体制を整える。 ・図書室常時開室へ向けて検討する。
	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしがおこなえるような工夫がある。	・コロナ禍のため、利用者同士の交流はできない状況が続いた。	・コロナ禍のため、利用者同士の交流は実施できなかった。	△	・博物館事業としては、主として新旧住民交流を意識した事業の取組は行っていない。	・新旧住民交流を意識した取り組みを検討する。 ・博物館事業への参加が少ない地域の住民が関心を持ちやすい内容を検討し、周知を徹底する。
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やイベントでの役割を担っている。 市民学芸員 36名 博物館友の会 63名(令和3年6月末現在) ・市民学芸員養成講座の通年開催（年10回）	・市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。 ・市民学芸員養成講座の通年開催により、新たに4名が市民学芸員となった。	○	・参加する市民の固定化や高齢化が進んでいる。 ・継続のための工夫が必要。	・さまざまな媒体により活動についての情報を公開し、多くの人が活動に関心を持てるように促す。 ・講座や活動サポートにより、継続できるよう支援する。 ・市民学芸員養成講座は引き続き通年で開催する。
	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	・コロナ禍のため、利用者同士の交流はできない状況が続いた。	・コロナ禍のため、利用者同士の交流は実施できなかった。	△	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者同士の交流は当面勧められない。 ・アクアラインなるほど館については、換気ができないため当面休館を余儀なくされている。	・新しい生活様式のもとで可能な利用者交流について、先進事例を調査し、検討する。

活動目標	あ る べ き 姿	令和2年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(4) 地域のつながりを活かす	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	・各種情報の管理と各種問い合わせに応じた対応 レファレンス件数 9件（メール対応） ・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開 調査研究、企画展・ロビー展等の開催、企画展図録刊行、市史研究等の研究成果の発表等	・市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。 ・市内に限らず市外、県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。	○	・資料や情報の整理が不完全である。 ・専門職員が足りず、対応が後回しになることがある。	・地域資料や情報の整理及び把握に努める。 ・簡単な質問について誰でも対応できるよう、資料を作成する。
	2.博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。	・企画展、ロビー展及び関連事業の実施。 ・講座「袖ヶ浦学」開催。 ・「初歩から始める大人のための縄文講座」開催。 ・博物館を拠点として活動している団体による地域貢献 ：市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座等への出前講座 ・公民館との連携の促進 ：根形公民館地域再発見講座等、公民館講座への出前講座	・企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。 ・友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。 ・市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。直近の公民館である根形公民館とは相互協力できた。 - 協力した公民館講座等の件数：14件	◎	・博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。 ・公民館講座への出前はあるが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。	・博物館を利用する機関・地域・団体等同士の連携を博物館がサポートする。 ・根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。 ・公民館・図書館との連携をさらに促進する。
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	・根形公民館との連携を強化した。 ・「行ってみようマップ」を活用し、博物館を中心とした根形地区散策を奨励した。 ・夏の単発イベントや公民館講座との連携で、袖ヶ浦公園を活用した。	・根形公民館地域再発見講座で博物館を多く利用し、相互に交流ができた。 ・多くの人に、根形地区の文化財や魅力について知ってもらい、博物館が文化の拠点であることも印象付けることができた。 ・市民会館等、根形以外の公民館からも講座等での利用があった。	○	・あまり袖ヶ浦公園を活用しきれていない。	・根形地区については、さらなる連携モデルを推進する。 ・各公民館との連携を強化する。 ・市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。 ・袖ヶ浦公園のさらなる活用方法を検討する。
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされいる。	・小学校3年生、6年生の校外学習支援 3校 ・出前事業や実物資料、教材の貸し出し ・教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 4件 ・小中学生の調べる学習への支援 ・教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。 ・山野貝塚体験学習プログラムの構築	・コロナの影響により、例年より校外学習の件数は少ないが、博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。 ・教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、学校側の視点を理解しやすくなり、より博物館の意図が子どもたちに伝わりやすくなった。 ・山野貝塚体験学習プログラムの構築により、中学校へのアピールができた。	○	・コロナ禍により、体験学習の実施方法が変化し、十分な対応ができなくなっている。	・アウトリーチへの変更等、柔軟な対応をし、できるだけことはするように努める。 ・博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	・市内外施設や機関へ講師等の派遣、講座等への協力 14件 ・君津地方公立博物館協議会へ参加 研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。 ・千葉県博物館協会への参加 ・千葉県史料保存活用連絡協議会へ理事・運営委員として参加 ・NPOとの連携。 ：資料貸出相談（しいの森里山会） ：機関紙への原稿提供（上総自然学校）	・社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。 ・椎の森里山会・上総自然学校との連携により、博物館の可能性がさらに広がった。	○	・積極的に地域の企業やNPOとの連携は図れていない。	・企業やNPO等へ博物館の活用できる施設や資料についてアピールする機会を設ける。

活動目標	あ る べ き 姿	令和2年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(5) 安心・安全 な施設にする	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	- 定期的な施設、設備の点検の実施及び修理の実施 - 急な故障や破損等の修繕 - 月1回の安全点検の実施	- 経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 - 博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。	○	年々、施設の老朽化が進んでおり、対応に苦慮している。	- 修繕等が必要な不具合箇所については速やかに予算を確保し、改善する。 - 展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	障害者施設、高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。 10件110人	- 利用者からは好評であり、リピーターも多く獲得した。 - 企画展Ⅰは、高齢者から好評であった。	△	- 館全体的なユニバーサルデザイン計画がなく、施設改修については実施できていないため、重い本館入口のドア等、以前からの施設的な課題は解消されていない。 - 多言語化対応ができていない。	- ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査し、施設改修計画に合わせて検討していく必要がある。 - 多言語化については、可能なことから対応を進める。
(6) 袖博らしさを追求する	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ケ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	- 袖ケ浦公園における野鳥観察 袖ケ浦学「冬の野鳥観察会」緊急事態宣言発出により中止 - 夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ケ浦公園周辺での実施	袖ケ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ケ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。	○	- 大学や研究機関と連携して事業展開が図れていない。 - 袖ケ浦公園については、さらなる活用が考えられる。	- 大学や研究機関との連携について検討する。 - 袖ケ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。 - 他機関との連携について、先進事例なども調査する。
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	- 市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 地域文化財データベース配布と自主企画展、関連講座開催の支援。 - 根形公民館地域再発見講座等、公民館講座と連携して、事業を展開。	- 市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。 - 市民学芸員の活動に調査成果公開の場を設けることで、より大きな達成感を得ることができた。 - 公民館講座との連携により、博物館事業への新たな理解者を得ることができた。	○	- 博物館と市民が一体となった調査研究活動が行われていない。 - テーマを絞った継続的な講座や活動が行われていない。	- 文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、博物館とともに研究できるような人材を育成する。 - 公民館との連携は、今後も積極的に展開する。
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができています。	- 専門研究者から袖ケ浦市史研究への寄稿 5人 - 調査においての新たな研究者による助言 - 博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 博物館実習生 5名	- 博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。 - 専門的な見地から助言をいただき、博物館活動に良い効果を得ることができた。 - 次代を担う新たな学芸員を育成することができた。	○	- 継続した研究体制ができていない。 - 若手専門職員が、研究発表の場である袖ケ浦市史研究や袖ケ浦学を活用できていない。	- これからも袖ケ浦市史研究等を通して地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。 - 袖ケ浦市史研究や袖ケ浦学等で若手専門職員の研究発表の場を増やす。

概要版

		内容等	計画等	備 考
博物館協議会		年3回開催	第1回 7月、第2回 11月、第3回 2月	第1回 令和2年度郷土博物館の運営に関する点検と評価について他 第2回 『袖ヶ浦市郷土博物館の使命』の見直しについて他 第3回 令和3年度郷土博物館事業の成果と課題について他
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催	例年6月第1土日に実施しているが、実行委員会での検討により10/9へ延期。	他事業への影響が想定されることから1日に集約して実施する。
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催	159回企画展Ⅰ関連 160回市史研究関連 161回特別展関連 162回未定 163回未定	新型コロナ対策として根形公民館を利用。
	博物館学芸員実習		実習生3名 7/27～8/6のうちの10日間	
	○民俗文化財伝承活用事業	上総掘り技術の記録映像制作 上総掘り講座(年10回)	上総掘り技術の記録映像制作(10月～12月) 上総掘り講座(10月～1月)	上総掘り講座は新規事業として実施。市民と上総掘り技術伝承研究会が参加して実施。講師は研究会員。 講座内容(作業行程や作業内容)を映像記録する。(後継者育成支援)
	その他		風揚げフェスタ 夏休みジュニア学芸員体験(1回) 初歩から始める大人のための縄文講座(6回)	風揚げフェスタは中止 夏休みジュニア学芸員体験は博物館実習生も参加。 縄文講座は、他の公民館を利用する。今年度で最終年度とする。
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出	5・6月小学6年生体験学習 1～2月小学3年生体験学習 その他、随時受入	
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施	袖ヶ浦高校との連携開始によるアウトリーチ実施。 山野貝塚体験学習プログラムの実践	中学生向けに昨年度作成した山野貝塚体験学習プログラムを実践する。
	その他			
●展示更新推進事業	○特別展・企画展	企画展特別展年4回開催	企画展Ⅰ「病と医療」 ○特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」 企画展Ⅱ「らくがく縄文館」 企画展Ⅲ「アクアラインとなるほど館の軌跡」	特別展と企画展Ⅲは市制施行30周年記念事業として実施。
	アクアラインロビー展示	随時展示	友の会風の会 日本の風	アクアラインなるほど館を休館しているため、当面の間実施しない。
	トピックス展 ミニ展示	随時展示	世界文化遺産登録勧告記念「特別史跡三内丸山遺跡時代の袖ヶ浦」 蔵波城御城印発行記念「蔵波城・久保田城と戦国時代の江戸湾」 市民学芸員 ソデフローラ区	本館ロビーを活用した展示 蔵波城御城印発行記念展示は商工観光課との連携事業
	旧進藤家住宅	施設展示・管理	施設展示 11月 友の会盆栽の会 盆栽展示 3月 市民学芸員 お雛様飾り 日常管理	
	その他	万葉植物園管理 古代復元住居管理	万葉植物園管理(通年) 古代復元住居管理(通年)	万葉植物園では市制施行30周年記念協働事業「みんなの里まつり」会場として9/19万葉植物園、10/24旧進藤家住宅で実施予定
★地域資料管理活用事業	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託	古文書等表題作成、整理作業(通年) 資料整理・台帳作成(通年) 埋蔵文化財写真デジタル化(随時) 資料燻蒸 環境調査実施(年2回)	
	史料修復 奈良輪漁協		資料35点の脱酸処理・補修等の修復委託 6月契約、12月納品	
	『市史研究』第21号	要項整備・原稿募集	6月15日原稿募集開始。10月1日申込締切。3月28日原稿締切	刊行は令和4年度
★市民学芸員協働事業	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園) ・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室) 定例会 毎月最終日曜日	フォローアップ研修2回 7月七夕飾り・9月十五夜コンサート・12月お飾りづくり・3月お雛様飾り 郷土を学ぶ会によるフィールドワーク、調査成果整理 令和4年度企画展のためのワーキンググループ活動	十五夜コンサートは6月定例会での話し合いにより、令和3年度は中止 企画展ワーキンググループ 12名参加
	○市民学芸員養成講座	養成講座年11回	4月から2月まで月1回養成講座を開催 7回以上の受講で市民学芸員認定	令和2年度は4名認定 令和3年度は6名受講中
友の会7グループ (仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会盆栽愛好会)活動		協働事業: 自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会	自然と歴史の散策会 1回 新事業「もっと知りたい講座」(仮) 新春風揚げ大会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	上総掘り講座・上総掘り技術映像記録撮影協力	

		内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会		年3回開催				16(金)第1回				第2回			第3回	
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル	年1回開催	第1回実行委員会	第2回実行委員会	5(土)・6(日)※延期 第3回実行委員会				9(土)ミュージアム フェスティバル ※10(日)予備日					
	講座 袖ヶ浦学	年5回開催			19(土)第159回袖ヶ浦学(企画展Ⅰ関連)講師:豊川公裕氏(千葉県文書館)		28(土)第160回袖ヶ浦学(市史研究関連)講師:酒巻忠史氏(木更津市教育委員会)			20(土)第161回袖ヶ浦学(特別展開連講演会)講師:鳥羽光晴氏(東京海洋大学)	第162回袖ヶ浦学		第163回袖ヶ浦学	
	博物館学芸員実習	前年度1月に受け入れ要項作成	・大学からの実習依頼文 ・回答			実習予定表作成・送付 7/27(火)～ 8/6(金)(10日間)博物館実習	7/27(火)～ 8/6(金)(10日間)博物館実習 大学宛評価表送付							
	民俗文化財伝承・活用事業	上総掘り技術の記録映像制作 上総掘り講座(年10回)			28(日)第1回記録映像制作検討委員会				上総掘り技術映像撮影 3・17・31日 上総掘	7・21・28日 上総掘り講座④⑤⑥	5・19日・上総掘り講座⑦⑧	8・22日 上総掘り講座⑨⑩	第2回記録映像制作 検討委員会	記録映像成果品納品
	その他					31(土)ジュニア学芸員体験	21(土)大人のための縄文講座①	4(土)大人のための縄文講座②	16(土)大人のための縄文講座③	大人のための縄文講座④		大人のための縄文講座⑤	5(土)大人のための縄文講座⑥	
博学連携事業	校外学習支援等	体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出		5/13(木)奈良輪小6年生	6/9(水)中川小6年生 6/22(火)昭和小6年生 6/29(火)根形小6年生 6/30(水)平岡小6年生	7/14(水)長浦小6年生						1/19(水)・20(木)昭和小3年生	2/2(火)・3(水)奈良輪小3年生、2/4(金)平岡小3年生、2/8(火)長浦小3年生、2/10(木)中川小3年生	
	出前授業・展示	アウトリーチ 出前展示の実施												
	その他													
展示更新推進事業	特別展・企画展	企画展特別展年4回開催	3/23(火)～4/18(日)企画展「袖ヶ浦の美術 中島敏明ー画業50年の軌跡「elegyと慈愛」ー」	5/1(土)～7/18(日)※会期延長 企画展Ⅰ「病と医療」					10月2日(土)～12月19日(日) 市制施行30周年記念特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」			企画展Ⅱ 出土遺物公開事業巡回展「らくがく縄文館」		
	アクアラインロビー展示											1/22(土)～3/23(水) 市制施行30周年記念 企画展Ⅲ「アクアラインとなるほど館の軌跡」		
	トピックス展 ミニ展示				世界文化遺産登録勸告記念「特別史跡 三内丸山遺跡時代の袖ヶ浦」									ソデフローラ区
							8/1(日)～蔵波城御城印発行記念「蔵波城・久保田城と戦国時代の江戸湾」							
	旧進藤家住宅	施設展示・管理							24(日)「みんなの里まつり」	盆栽の会盆栽展示				
地域資料管理活用事業	その他	万葉植物園管理 古代復元住居管理						19(日)「みんなの里まつり」万葉植物園						
	資料管理活用	・収蔵資料保存管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託				環境調査(1回目)		資料燻蒸	環境調査(2回目)		資料燻蒸			
	史料修復 奈良輪漁協				史料修復委託執行 伺い・契約						史料修復成果品納品			
市民学芸員協働事業	『市史研究』第21号	要項整備・原稿募集			市広報紙募集記事掲載 (6/15号)			申込締切 採否連絡、原稿執筆依頼						原稿締切
	市民学芸員活動	体験学習支援 自主企画展企画ほか ・万葉グループ第3土曜日午前活動(万葉植物園) ・葉月の会 第3土曜日午後活動(体験学習室) 定例会 毎月最終日曜日	市民学芸員フォローアップ研修	5(水)こどもの日イベント	5(土)・6(日)ミュージアム・フェスティバル協力 ※延期 19(土)企画展ワーキンググループミーティング①	10(土)企画展ワーキンググループミーティング②	19(木)企画展ワーキンググループ移動研修	十五夜コンサート(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)	9(土)ミュージアムフェスティバル協力 13(水)フォローアップ研修(バス移動講座)		お飾りづくり		市民学芸員フォローアップ研修(市民学芸員養成講座と合同)	お雛様飾り
	市民学芸員養成講座		17(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション	8(土)市民学芸員養成講座②小学校6年生体験学習スタッフ養成講座	12(土)市民学芸員養成講座③博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	30(金)市民学芸員養成講座④IPMIについて学ぼう(博物館実習と合同)	21(土)市民学芸員養成講座⑤そではく大解剖!そではく辛口採点会	11(土)市民学芸員養成講座⑥博物館の調査研究とフィールドワークの心得	23(土)市民学芸員養成講座⑦フィールドワーク実習	13(土)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座)	11(土)市民学芸員養成講座⑨小学校3年生体験学習スタッフ養成講座	22(土)市民学芸員養成講座⑩資料整理の基礎	11(金・祝)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	
次世代7グループ (仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、風の会、古文書いろはの会、機織りの会盆栽愛好会)活動		協働事業:自然と歴史の散策会(年2回)ほか 第2・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会		4(火)千葉県主催「かずさの国風あげフェスタ」※中止 総会・講演会※講演会中止	5(土)・6(日)ミュージアム・フェスティバル協力※延期				9(土)ミュージアムフェスティバル協力	第1回自然と歴史の散策会	もっと知りたい講座(仮)	新春風揚げ大会		第・4金曜日古文書いろはの会 毎週水曜日機織りの会
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日	総会		5(土)・6(日)ミュージアム・フェスティバル協力※延期				9(土)ミュージアムフェスティバル協力 3・17・31日 上総掘り講座①②③協力	7・21・28日 上総掘り講座④⑤⑥協力	5・19日 上総掘り講座⑦⑧協力	8・22日 上総掘り講座⑨⑩協力		
休館日 (月曜以外)			30(金)	6(木)			10(火)	21(火)・24(木)		4(木) 24(水)	26(日)・28(火)29(水)・30(木)・31(金)	1(土)・2(日)・4(火)・11(火)	24(木)	22(火)